

紙本墨画「墨梅図」(左) 能阿弥の筆と伝えられる紙本墨画「墨梅図」。この伝世美術品の解体修理を行い、元の裂地も修理して再用。紙は紙質検査に基づき、補修紙を作成して補修。シミ、汚れ、亀裂、欠失を修理し、紙、裂地共に裏打ちを替えました。伝統的な材料のみを使用しています。

絹本淡彩「猿の図」(右) 解体修理を行い、裂地も再利用して仕立て直した。古い絹本は脆弱化しているため、同じように人工劣化させた絹を使って補修。伝統技術と現代の修理材料を用いて修復しました。

紙本着色「早春の圖」 円山慶祥筆「早春の圖」。現代作家であるため、裂地の取り合わせを総銀襷で、地模様のみ裂地でモダンに仕立てました。表装はあくまでも作品を引き立てる役割で、出過ぎても、引き過ぎてもよろしくない。明るく穏やかな早春の雰囲気仕上ったと思います。



松田 一貴

2000年嵯峨美術短期大学専攻科卒業。
同年(株)光影堂入社。
2010年(株)藤岡光影堂へ移籍。
2013年「京もの認定工芸士」認定。

〒603-8002
京都市北区上賀茂神山386-5
(株)藤岡光影堂
TEL&FAX.075-781-0359
HP <http://www.fujioka-koeido.jp/>
Eメール kyohyougu@fujioka-koeido.jp

室町時代から続く京表具。その伝世品の修復は裂地や和紙を張り替え、裏打ちし、亀裂などの傷や欠損を補修するといった表装技術の古い伝統を守り、次代につながる役割があります。古い絵画や書跡などの美術表装をもつぱらとする京表具の職人で、伝統技術だけでなく、光学機器や調査技術など現代の先端技術を取り入れています。新旧の技術を融合させ、より精度の高い仕事が求められるのが私たちの世代だと思います。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術をもった意欲ある若手職人に京都府知事から授けられる称号。

表具の補修は伝統技術の 継承と先端技術の融合



まつだ
松田
一貴
かずたか

京もの認定工芸士 第86号